

浅口市 令和6年度 県学力・学習状況調査の概要

令和6年10月

浅口市教育委員会学校教育課

【調査概要】(R6 4/18 実施)

○浅口市内 7 小学校 3 年生 240 人、4 年生 234 人、5 年生 214 人

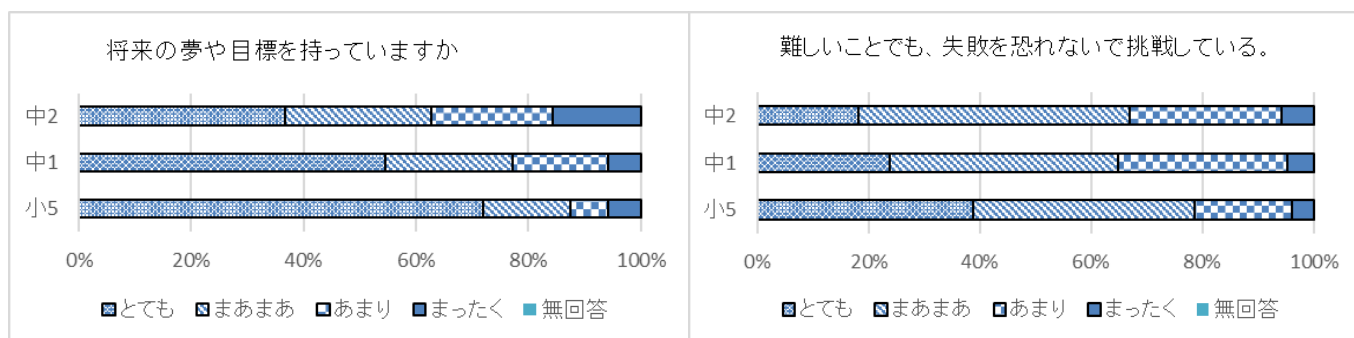
○浅口市内 3 中学校 1 年生 219 人、2 年生 263 人

【学力調査の結果概要】

○平均正答率

	小学3年生		小学4年生		小学5年生		中学1年生			中学2年生		
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値	71.0	75.9	71.2	70.8	64.4	63.3	59.6	63.1	71.9	63.5	56.7	51.7
浅口市	74.2	76.8	74.9	73.8	68.6	67.6	63.3	65.8	76.1	67.2	59.6	53.2
岡山県	71.8	76.8	71.5	71.5	63.8	62.7	61.0	63.6	76.6	64.9	55.4	51.1
全国	72.8	78.0	73.4	72.1	64.9	64.0	61.3	64.4	76.8	65.1	54.7	52.7

- 今年度の浅口市は、全ての学年、実施教科で実施業者が設定している目標値以上の正答率であった。また、小学3年算数・中学1年英語以外で全国及び県平均を上回っている。全体的な傾向として各校が取り組んできた基礎・基本の徹底や授業改善の成果が表れていると考えられる。



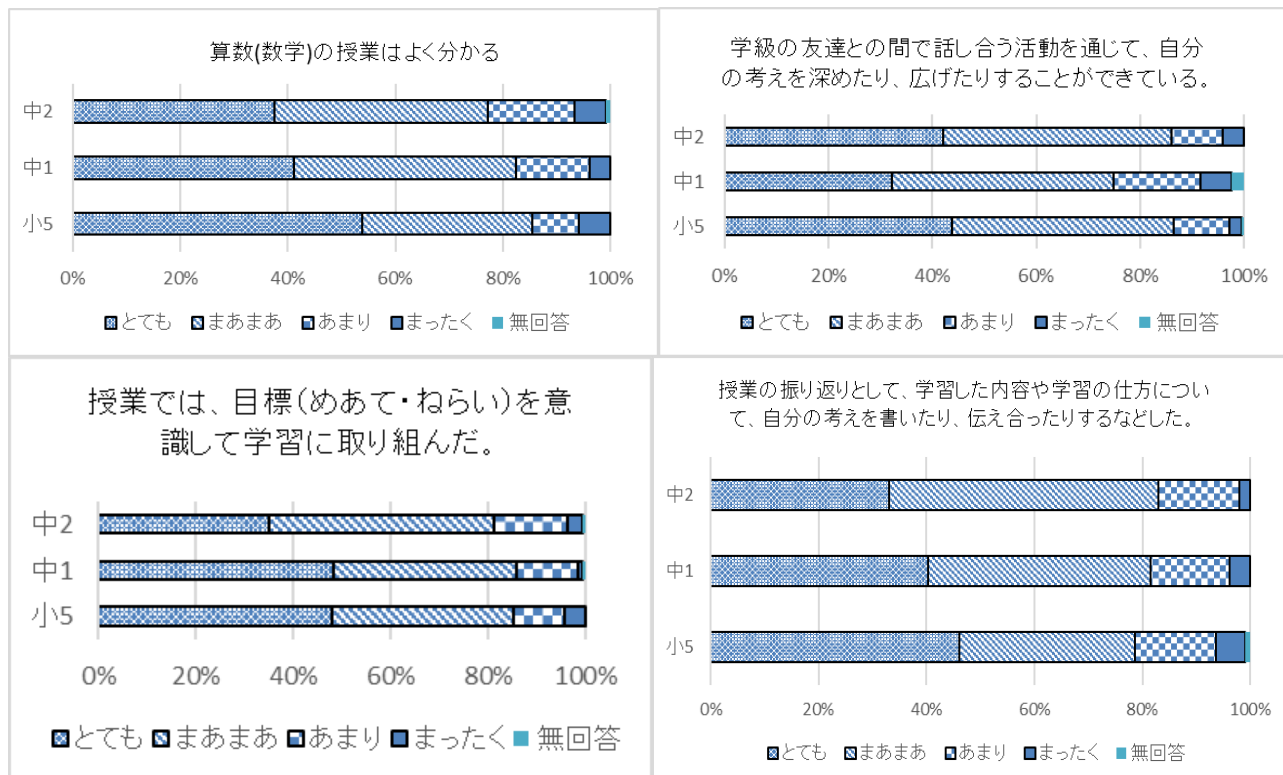
- 「将来の夢や目標を持っていますか」について、小5は肯定的な回答が90%近くを示しているが、小5から中2にかけて年々減少傾向にある。また、昨年度と比較すると将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合が減っている。

⇒小中一貫教育とCS（コミュニティ・スクール）での地域の方々との交流の推進

- 「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」について、肯定的な回答が70%前後を示している。「失敗を恐れている」児童生徒が約30%である。

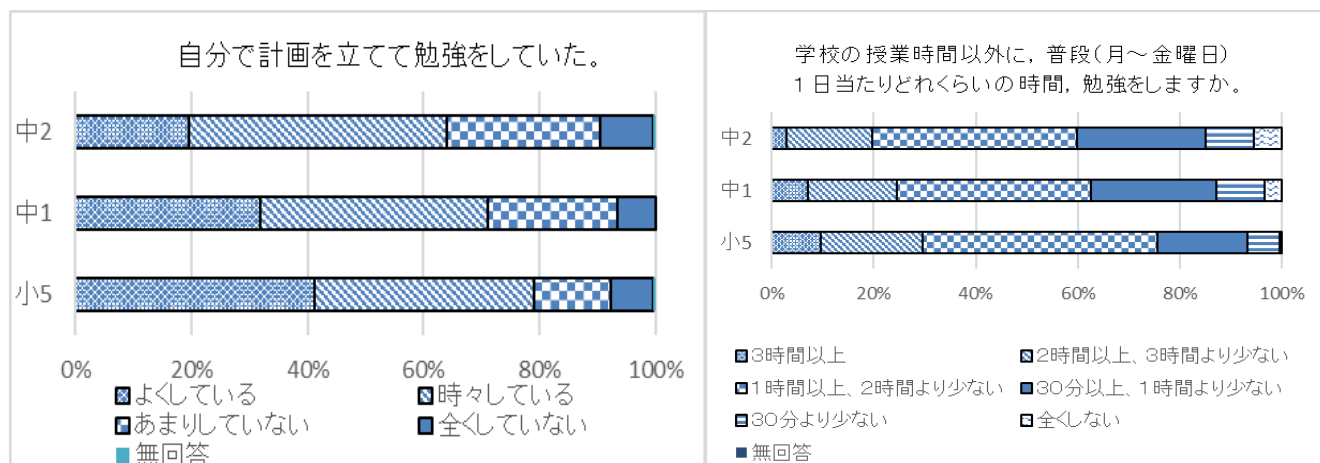
⇒CSでの活動と「ほめて 認めて 励ます」学級づくりの推進

① 授業について



- 「算数(数学)の授業がよく分かる」について、肯定的な回答が80%程度である。また昨年度と比べると上昇傾向である。
- 授業の中でめあてを意識して学習に取り組むことはどの学年においても肯定的な意見が80%を超えている。このことが調査結果につながっていると考えられる。
- 学級の友達との話し合う活動について、肯定的な意見が80%を超えている。しかし、苦手意識を持っている児童生徒が20%程度いることから、協働学習を積極的に取り入れ、自分の考えを伝え合うことで自己肯定感や自己有用感を高めていくことが必要である。
⇒主体的・対話的な深い学びの実践
- 授業の振り返りについて、80%程度が肯定的な意見をもっている。更にこれまでの協働学習を充実させることで、学習の定着を図っていく。
⇒学校での教育と家庭学習との連動

② 家庭学習について



- 普段 1 時間以上の家庭学習を行う児童生徒の割合について昨年度と比較すると減少傾向である。しかし、引き続き調査結果をみると学力が高い数値を示していることから、一人一台端末の導入により、効率的な学習ができていると考えられる。
- 「自分で計画を立てて勉強をしている」について、肯定的な回答をしている児童生徒の割合が年々減少しているのが課題である。学年進行とともにその割合が向上するよう、取組を工夫する必要がある。
⇒児童生徒の自主的な取組の設定

【市教育委員会の今後の取組】

～キラリと光る未来プロジェクトの推進～

□「良質な関わり合い」に焦点を当てた保育・授業改善、家庭学習・補充学習等の質的充実による学力の向上

- 資質・能力の育成に焦点をあてた指導の充実。
- 1人1台端末の活用による個別最適な学びや協働的な学びの推進。
- 校内研等を活用して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりへ指導の充実。
- 学習支援員（小・中学校）を効果的に活用し、定期的な補充学習の機会の保障。

□「子どもたちの主体的な活動、家庭や地域との連携」に焦点を当てた基本的な生活習慣の向上

- 各校の実践の再構築のための情報共有。
- コミュニティ・スクールを推進し、地域の力を生活習慣の向上の取組に生かす。

□「系統的・継続的な教育」に焦点をあてた小中一貫教育の推進

- 学習指導要領に基づく9年間のカリキュラムを編成し、小学校と中学校の滑らかな接続を図る。
- それぞれの小中一貫教育校で特色ある教育活動の実践
- 中学校教員による小学校への乗り入れ授業の実施
- 小中一貫教育校において目指す子ども像を共有し、教職員が一体となって子どもたちの「生きる力」の育成を図る。
- お互いの良さを見付け、伝え合う活動の継続。
- 「あさくち未来学」（社会に開かれた教育課程）の実践
- 理科教育の充実（岡山天文博物館との連携）

